

令和3年産 麦作情報 (Vol. 2)

技術情報はこちらから

令和3年2月12日
宮城県石巻農業改良普及センター
TEL:0225-95-7612 FAX:0225-95-2999
http://www.pref.miyagi.jp/soshiki/et-sgsin-n/



1 12月以降の気象経過(図1)

<12月> 低温・少雨傾向

気温は平年よりも低く、日照時間は平年より少なくなり、降水量は平年より少なくなりました。(12月の平均気温:平年差 -0.9°C 、日照時間:平年比88%、降水量:平年比24%)

<1月> 低温・少雨傾向

気温は平年よりも低く、日照時間は概ね平年並、降水量は平年より少なくなりました。(1月の平均気温:平年差 -0.7°C 、日照時間:平年比97%、降水量:平年比34%)

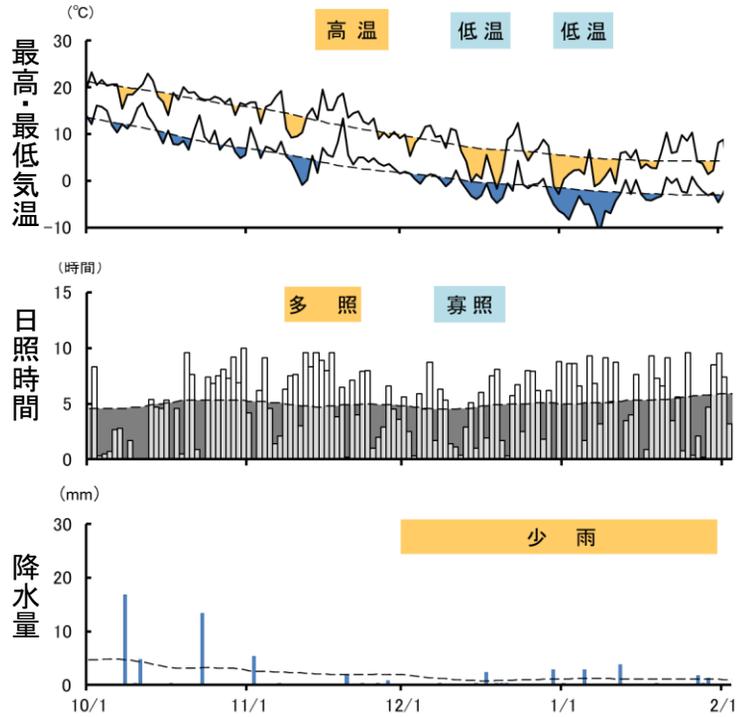


図1 気象経過(アメダス石巻) ※ 点線は平年値

2 生育調査ほの生育状況

(2月3日現在, 表1, 次頁写真1)

- ◆ 草丈は、シュンライ(神取)及びシラネコムギ(樫崎)で平年を上回っていますが、そのほかのほ場では平年を下回っています。
- ◆ 茎数は、ミノリムギ(高須賀)ほ場以外では全体的に平年並～平年を上回って推移しています。
- ◆ 幼穂長は、大麦、小麦ともに概ね平年並です。

表1 生育調査ほ調査結果(2月3日調査)

品種	調査ほ (旧市町)	播種日(月日)			草丈(cm)			茎数(本/㎡)			幼穂長(mm)		
		本年	前年差	平年差	本年	前年差	平年差	本年	前年比	平年比	本年	前年差	平年差
シュンライ	神取 (桃生)	10/16	-17日	-7日	11.5	+5.9	+1.5	616	176%	137%	1.0	+0.4	+0.1
ミノリムギ	高須賀 (桃生)	10/20	-12日	-4日	10.6	+1.8	-1.2	345	176%	82%	0.9	+0.6	+0.1
	真野 (石巻)	10/29	-19日	+2日	9.5	+2.4	-0.2	422	157%	102%	0.7	+0.4	-0.1
ホワイトファイバー	水沼 (石巻)	10/20	-19日	/	9.1	+2.1	/	828	220%	/	0.9	+0.4	/
シラネコムギ	小船越 (河北)	11/29	+20日	+28日	2.5	-4.6	-9.1	-	-	-	-	-	-
	樫崎 (桃生)	10/20	-13日	-8日	12.1	+2.5	+0.7	681	114%	117%	0.4	+0.1	+0.2

※平年差・比は過去5か年の平均値との比較。播種日の+は遅い、-は早いことを示す。

※水沼ホワイトファイバー調査ほは調査3年目のため平年差・比は記載しない。

※小船越シラネコムギは2月3日現在で出芽率がほ場全体の60%程度であり、条間の計測ができず栽植密度が算出できなかったため茎数は未掲載。



写真1 生育調査ほの生育状況

3 今後の管理

～排水対策, 麦踏み, 追肥のポイント～

- (1)「排水対策」～融雪や降雨によるほ場の停滞水を速やかに排出することが重要です～
暗きよが閉じているほ場がないか、再点検しましょう。また、明きよの手直しを行いましょう。
- (2)「麦踏み」～ほ場が乾いている時に、茎立ち前までに行いましょう！～

- ◆ 麦踏みは、融雪後、茎立ち前までに行いましょう。
- ◆ 土壤が湿った状態で麦踏みを行うと、土壤が固く締まって根の伸長阻害や排水性悪化の原因となります。作業は、必ずほ場が乾いた状態で行うようにし、ほ場が乾かないうちに無理に行わないようにしましょう。
- ◆ 湿害によって葉の黄化や生育量不足が著しい場合や、鳥類による食害が見られる場合には、効果が十分に得られないので、麦踏みを行う必要はありません。



- (3)「追肥」～幼穂長を確認し、適期追肥に努めましょう！～

① 株直し追肥 … 葉色の回復, 茎数の増加

- ◆ 融雪後の生育量が小さい場合(㎡当たりの茎数が400本以下、次ページ図2参照)や、葉の黄化が著しい場合などに、N(窒素)成分で1～2kg/10a程度施用します(表2)。茎数が多く、葉色の低下も見られないほ場では不要です。
- ◆ 鳥類による食害の著しいほ場では、融雪後ほ場に入れるようになったら新葉の生育促進のため株直し追肥を行いましょう。施用量はN(窒素)成分で1kg/10aが目安です。



表2 追肥の施用時期と施用量の目安

追肥の種類 (生育ステージ)		株直し追肥 (融雪後)	幼穂形成期 (幼穂長2～3mm)	減数分裂期 (幼穂長30mm)	穂揃期 (8～9割が出穂)
目的		茎数の増加 葉色の回復	有効茎歩合増加 (穂数の確保)	一穂粒数の増加 登熟良化	小麦の子実タンパク質 含有率の向上
大 麦	時期	2月	2月下旬～3月中旬	4月下旬	硬質麦防止のため 実施しない
	10a当たり 施用量		3月上旬～4月上旬	4月下旬～5月上旬	
小 麦	時期	2月	3月下旬～4月中旬	4月下旬～5月上旬	5月中旬
	10a当たり 施用量		窒素成分1～2kg (硫安5～10kg)	窒素成分2～2.5kg (硫安10～12kg)	
			窒素成分4～5kg (硫安20～25kg)	窒素成分2～2.5kg (硫安10～12kg)	※ 夏黄金は2倍

※ 時期は平年の場合の大よその目安であり、実際には現地ほ場の幼穂長を見てから追肥時期を判断すること。



② 幼穂形成期追肥 …… 穂数の増加

- ◆ 幼穂長2～3mmが目安です。生育調査ほではシュンライ、ホワイトファイバー(3月上～中旬) ミ/ムギ(3月中旬～)、シラネコムギ(3月下旬～)と見込まれます。大麦、小麦ともN成分で2～2.5kg/10a程度施用します(表2、図3)。
- ◆ 麦類は幼穂長が2mmを超える頃から茎立ちし、幼穂や節間の伸長が急激に進むため、この頃の窒素栄養状態の悪化は有効茎歩合の低下を招きます。その一方で、過剰施用は節間伸長を助長し倒伏の原因となるので、適期・適量施用に努めましょう！

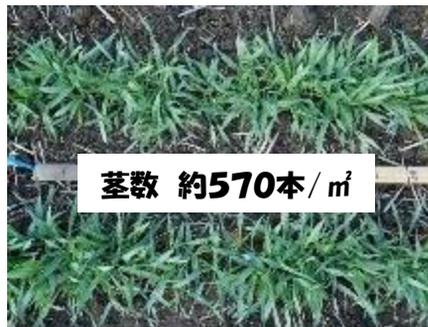


写真2 茎数の目安 (シュンライ, 条間30cmの例)



10月上旬播種のシュンライでは既に幼穂形成期を迎えているほ場もありました(写真3)。適期追肥に努めましょう！

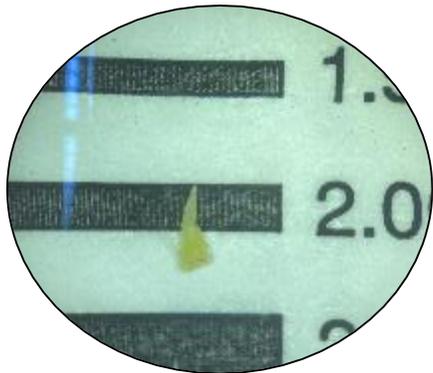


写真3 2mmの幼穂(10月上旬播種シュンライ)



今年は鳥害が散見されます(写真4)。新葉の生育促進のために株直し追肥を行いましょ！

写真4 鳥害ほ場(桃生地区)

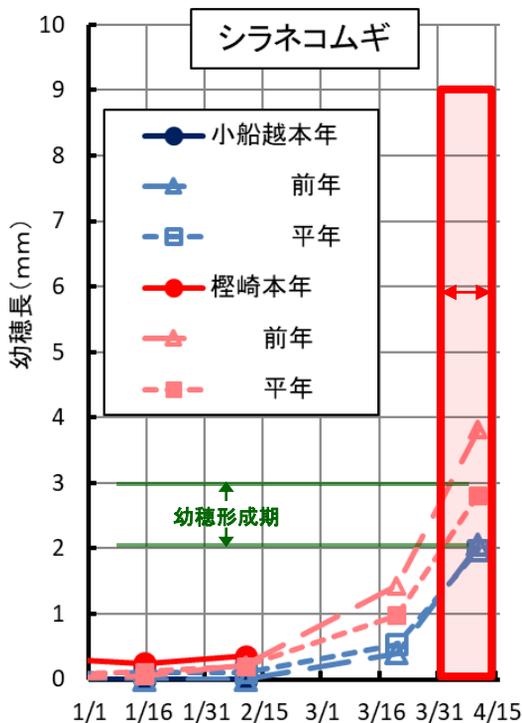
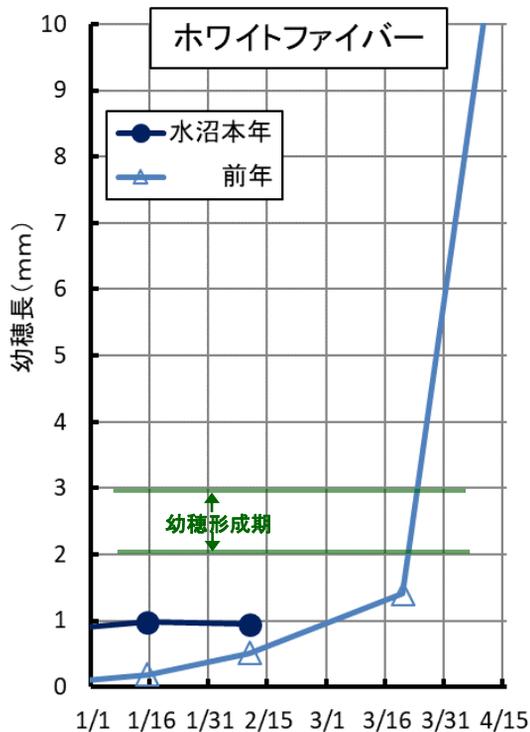
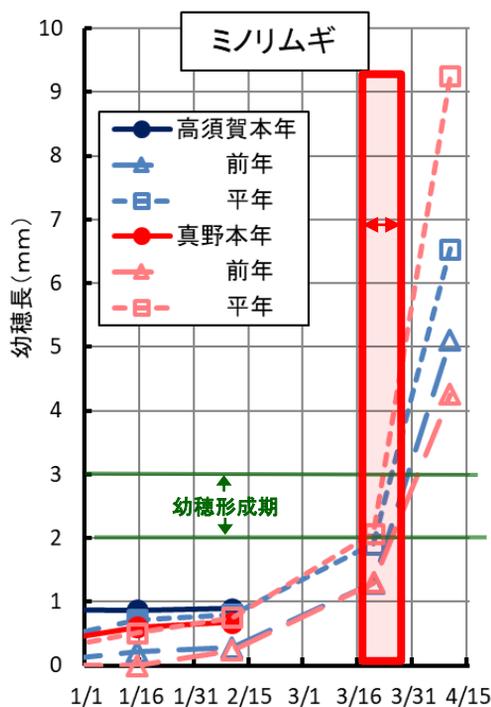
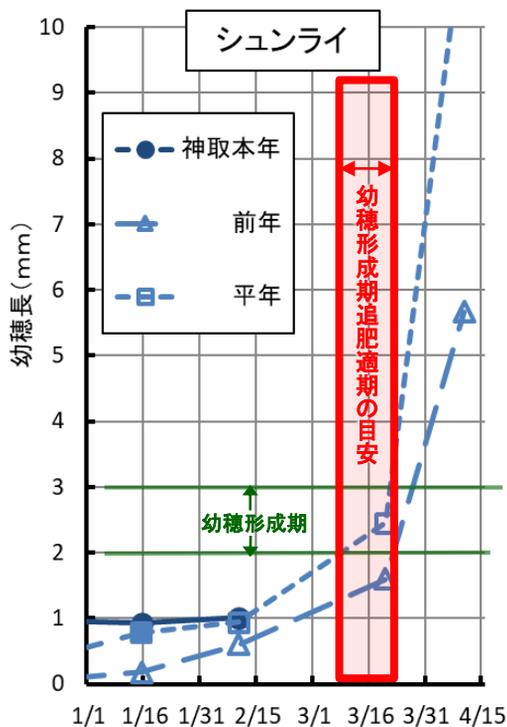


図2 生育調査ほにおける幼穂長の推移

※緑線内:幼穂形成期(幼穂2~3mm), 赤線内:平年値から推察される幼穂形成期追肥適期の目安

1か月予報 (2/6~3/5)
 仙台管区气象台 2月4日発表

平年に比べ晴れの日が少ないでしょう。

<向こう1か月の気温, 降水量, 日照時間の各階級の確率(%)>

<気温経過の各階級の確率(%)>



■低い(少ない) ■平年並 ■高い(多い)

■低い ■平年並 ■高い